大正十四年十二月一日（第三種郵便物認可）　昭和二年九月五日　平新報　第四十二號

平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町南町七七 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍增
送料定價共一部金十錢

本年度縣下中等學校体育大會
出場の選手意氣上り全校擧げて
應援團を組織、聲援眞劍味を加ふ
磐城中學校の陣容

本年度縣下中學校体育大會は來る十一日開催さるにより磐城中學校にては去る二日後援會を組織し五年生徒互選で應援團委員をあげ應援する事となつたが應援團長に渡部正邦、副團長に中野喜一、高田彌内が選ばれ外委員二十餘名である

因みに出場選手、各部委員と出場場所は左の如くである

一、出場選手と各部委員

A 柔道部
〔選手〕荒川來四郎、志賀重慶、花園徹、佐藤八郎、志賀傳吉、鯨岡英俊、蛭田四郎、
〔委員〕小林智精、毛上武義、鈴木榮一郎、松本孝一

B 劍道部
〔選手〕麻原作衞、木田芳重、塙操、楡田幸三郎、鈴木充雄
〔委員〕黑木房平、村田竹代、箱崎榮吉、花澤武男

C 野球部
〔選手〕馬目讓、栗山樹八、水野峯夫、大平文夫、畑基、先崎拾、大瀧儀助、小林行雄、籠倉五郎、坂本德治、阿部藤夫
〔委員〕淺井義治、松永格、柴崎茂八、小澤信、渡邊武男

D 庭球部
〔選手〕兒玉光誠、鈴木新八郎、鴻池正恒、蛭田仁、吉田孟、大竹武三
〔委員〕鈴木邦與、宇佐神正康、富岡馨、蛭田睦平

E 競技部
〔選手〕鈴木武夫、草野仁、鈴木重雄、搵正、高橋政雄、志賀重郎、金成龜太郎、成田末太郎、永野孝雄
〔委員〕永久保貞、村山林一、山野邊忠雄、清見西夫

一、大會會場

福島市　競技
若松市　柔道、劍道
白河町　野球
中村町　庭球

一、大會期日 九月十一日

此處に同校選手の意氣と應援團の眞劍振り加ひて各團の前人氣『下馬評』を紹介すれば

磐中健兒の意氣

今茲こそ新しい磐中の黄金時代である。新しい磐中の展開である。正に磐中精神高調し秋は來れり陣太鼓の音！嗚呼高月に正氣あり、若き命の火に照し熱き涙と血に咽ぶかの櫻花の徽章、仰ぐ時悲憤は溢れ、磐中健兒の胸は燃ゆる哉。

さらば進まん我選手よ、降魔の劒光あり正義の御旗香ある時、若人としての隨喜と意氣とて飽迄ベストを盡して呉れられん事を――眠れる獅子の立つがごと、潜める龍のさむるごと――嗚呼磐中は縣下の覇王たらん。

各部の下馬評

A 柔道部は日本に馳名の橋本芳太郎先生、小天狗、麒麟兒の錚々たる鈴木寅之丞先生を初め多數先輩有段者の教授練習に寸暇もなき態にて今年こそ沈滯幾春秋の氣を顯り必らずや、縣下の覇星たるを得ん。

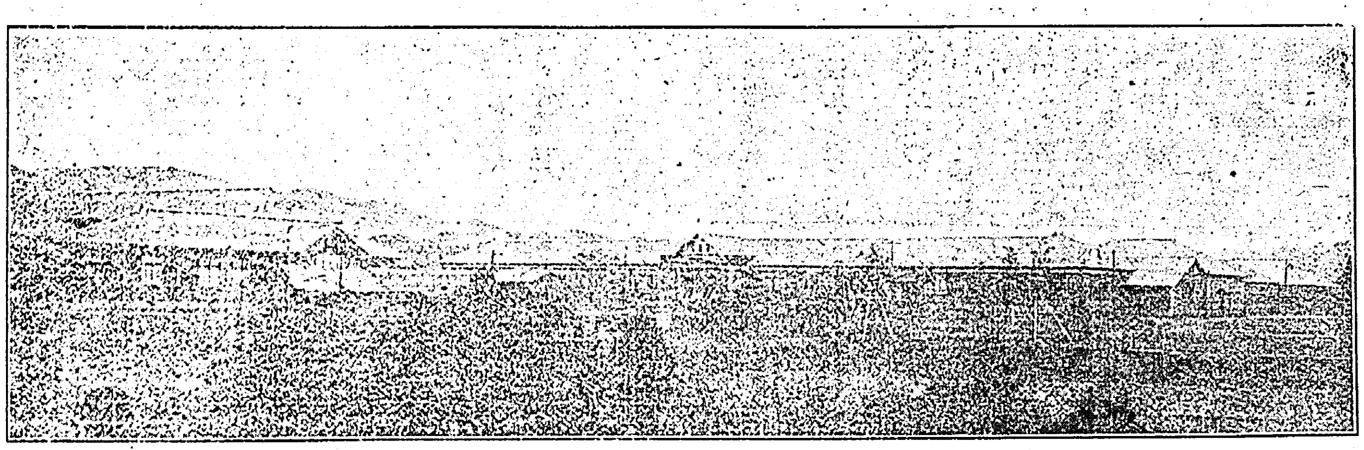
B 劍道部も傳統の磐中武道精神を体得し、水本先生小松先生等知名の教授練習に一刻一段づゝの進境を示し既に覇氣滿々として我部の前に會中もなし福中もなし。

C 野球部皆若輩の美少年なれどその心意氣共に磐中の爲にその念一にして先輩十數名指導の下に日に日に隔段の進境は實に稀に見る好チームなり、野球の優勝又疑ひなし。

D 庭球部廣田先生始め諸先生諸先輩毎日苦熱と戰ひ我等が選手を激勵勇猛邁進せしめ往年の日本一に迫る美事な選手の活躍は到底福中以下縣下の諸校の追從かなはざる域にあり幸に多士濟々の選手諸兄よ自愛あれ。高月臺上高く庭球優勝の宴に浸る日も近し。

E 競技部前年よりの猛者鈴木(武)君を始め又多士濟々の競技部である。小野先生齊藤先生等スポーツの造詣深き先生の下に死んでも勝つの意氣込が磐中の競技部である。文武兩道の花紋り伊達に二本の白線を卷く我等に非ずされば日本第一の磐中の爲その第一歩たる縣下に先づ覇を握らん事を

圖 平町高月臺上の磐城中學校全景 圖



運動と讀書のシーズンに入つて生徒數壹千五十六名を收容し職員數四十餘名設備其他關北に冠たる磐城中學校の八幡の森より望める新校舍

諸事雜相

△平驛に於ける本年度一月より七月末迄の貨物取扱高は左の如くである。

	到着噸	收入金	發送噸
一月	16、098	7、704円	16、040
二月	16、451	5、919	1、076
三月	14、049	7、438	2、893
四月	1、383	8、052	2、600
五月	13、411	6、841	2、400
六月	14、178	10、478	4、281
七月	14、251	8、227	5、110

合計
發送噸　三四、四〇〇噸
到着噸　八九、八二一噸
收入金　五四、六五九圓

×　×

△平郵便局舍の新築は、總工費二十五萬圓に確定、移轉候補地二ヶ所（三、四丁目）選定されたと云ふから遠からず決定を見る事であらうと。

×　×

△平町は近來交通頻繁となり、且つ保健衞生上、道路下水路の改修の必要に迫られつゝあるそが經費捻出に當局は頭痛鉢卷の体――

×　×

△豐間村大敷事務所では今年から又秋網を張る事になつた、第一年の秋網に失敗して一時中止してゐたのを復活された迄の山

旬間時事

「自八月二十五日 至九月四日」

◆平郵便局は縣議選に無稅郵便物三十五萬通三千五百貫（一通十匁）の見込みにて局員約五十名の增員

◆國母陛下の御慶事、平町の奉祝方準備なる。

◆江名漁業組合では、東洋捕鯨會社の江名濱埋立地使用認可が、占用漁場の水質汚毒により漁業不能になるとて縣へ反對陳情をした。

◆八月二十七日平田町眼科醫牧原修氏逝く、氏は磐中四回卒業

◆同月二十九日午後六時好間村川中子井出方より出火同家一軒を燒失原因は小兒の弄火

□本月一日夜勿來町渡邊梅吉郎方より出火居宅二棟を燒いて鎭火

□三日本縣議選擧に關する告示知事より發表され石城郡は開票所二ヶ所增設され即ち平町、下小川、植田の三ヶ所

□縣議候補本郡の分略內定し戰雲低迷す

通信

郡山市小原田 五十四 箱崎貞吉

山野邊兄足下

頃日來平新報再三御惠送に與り有難く拜讀仕り候御別れしてより早や十年の星霜を經過し候大兄には相變らずの御元氣にて操觚界に活躍せられ先覺者として破邪顯正の力を致さるゝこと大慶至極に存じ候小生儀平々凡々碌になすなく夢の如く過し申候若冠尙爲すなきと存じ蟄居の生活を致し居り候　五月以來胃腹病に惱まされ閉口仕り候も昨今快方に向ひ候間其內拜趨致し久濶を叙し度くと存じ居り候　殘暑耐え難き折柄御自愛專一に祈り候

×　×

岩手縣花卷稅務署 鈴木義達

山野邊眞立樣

拜啓過般御訪ね下され候際は何事も致さず欠禮の段御寬恕被下度候小生豫定の如く去る十五日貴地發足途中恙なく午後十一時安着仕り候間他事乍御安堵被下度候今回歸省に際しては大兄の御盡力に依り親しく恩師に接する機會を得候のみならず二八會員各位の動靜を知り候　滿足此の上なく多謝奉り候　會員各位が社會的中堅となり奮鬪しつゝあるは一人微笑まざるを得ず候乍末筆　恩師並に會員各位の健在と貴紙の發展を祈るものに候　敬具

×　×

原町農蠶學校 午來不二夫

山野邊樣

拜啓殘暑尙去らざる昨今益々御清祥奉賀候　陳者本日は御丁寧にも御發行の貴新報御送附下され有難く厚く御禮申上候　種々なる難所を突破しての御經營の勇、敬服に不絕候　而して社會教化に御盡力返す〴〵敬服致し候　益々御奮鬪の程祈上げ候　尙過般來出平の折は御多用中の處種々御便宜御取り計ひ被下且又御鄭重なる御待遇に御厚志の段深謝仕り候　何卒今後共斯道のため折角御後援を賜はらん事を懇願仕り候右略儀ながら端書にて御禮まで時節柄折角御自愛の程祈上申候　敬具

×　×

八月廿七日 於中ノ澤 青木淸太郎

山野邊眞立樣

冠省貴下御滯在中は失禮仕候本日貴紙御惠與被下謹讀厚く御禮申上候　御繁務と時局爲國家御自重足下之新御健康併而祈貴紙之發展

新川柳

「魚籠」 渡邊一角先生選

大漁に日暮れて魚籠にくたびれる
月影に銀鱗おどる魚籠の中
重そうに中を見せたい魚籠を提げ　文狂
一匹が釣れて一匹のかごの音　有頂天
ニコ〵の父重そうに魚籠を提げ　除花郎
足輕に歸る夜振りの重い魚籠
曾心の笑を重たい魚籠に見せ　須磨子
今日も亦竿に通して笑はれる
魚籠に天命を待つものばかり　劍突坊
輕い魚籠動かぬ浮木目は斜め
お互の魚籠を見せ合ふタソガるる
魚釣りの魚籠にあふれて夢が覺め　東天紅
釣れてない魚籠へ魚籠から分てやり
釣竿とビクに親しむ出養生　新坊

人
二人並んで輕い魚籠重い魚籠　東天紅

地
草の上魚籠へ空しく日が當り　滿壽莊

天
まだ空の魚籠へだん〵陽は沈み　新坊

新川柳募集

海岸　五句吐　東京　秦獅子郎氏選
疲　五句吐　米澤　藤沼梅笑氏選
雜吟歡迎　十句以內
〆切九月十五日限り嚴守
屆所　平一丁目二〇　綿引東天紅宛

御待ち兼ねの
中學服特賣
優等品にて 昨年より各壹圓貳拾錢安
中學一年生位用　一金四圓四十錢
同　二年生位用　同　四圓六十錢
同　三年生位用　同　四圓八十錢
同　四五年生位用　同　五圓也
但し磐中平商金釦付貳十錢高
平町二丁目　電話二〇三番
なかや洋服店

橫森醫學博士推奬
不思議な滋強靈液の
養命酒
定價試用分壹圓五拾錢　德用分貳圓
發賣元信州天龍館東京支店
平町五丁目角
特約代理店　山野邊藥局

內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

高久病院
平田町　電五一三番

植田町
森合齒科醫院
本町
森合芳男

復活せる溫泉
磐城 湯本
溫泉旅館
松柏館
電話 五番

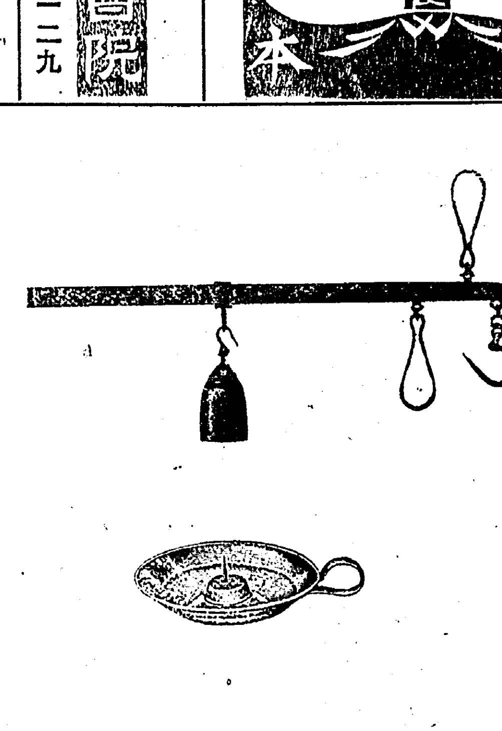
平町南町
上田眼科醫院
電話一二九

大好評ノ
第十五回福引大賣出しは
九月十五日マデ五日間日延
特等十割引
一等五割引
二等三割引
三等一割引
四等五分引
五等三分引
秋柄は全部荷揃ひしました
御買になるは今！
最も新しい柄は 亀 です
平町三丁目
亀 中野呉服店
電話六十七番

日本石油株式會社特約
淸關内油店
營業課目
內外機械油
發動機用油
色油類各種
度量衡器
カーバイト
コールタール
石油乳劑
平町二丁目
關内正一
電話長十六番
油槽所 福島縣平町田町 電話六四〇番
支店 茨城縣多賀郡關本驛前 電話平潟三十七番

平和削節製造 發賣元
海陸物産問屋
常磐線湯本驛前（磐城屋號）
M
鈴木道太郎商店
（振替東京六一二〇一）
◎最上鷄の餌（魚粉）

□農業だより
一、牛田式 噴霧器 各種
一 消 毒 藥 各 種
一 カネ印除虫粉特約代理店
理化學研究所製デリス原藥
ネオトン 特約代理店
一 石灰窒素肥料
平町二丁目 電話長三番
西村屋藥舖



良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は久の生命なり
營業課目
鑛山用諸機械　銅鐵材板硝子　鍋釜類食器具
輕銀琺瑯製品　特選スコップショベル　釘針金
亞鉛板　金庫度量衡器　農工具　打刃物　磐城セ
メント　ボールトナット　バルブ　消火揚水喞筒
土木建築金具　坂本式ベルト　國産工具用鋼
スパイキコック類
平町五丁目
久 釜屋商店
振替貯金口座東京一〇九五六番
電話長九番 一三九番
◎品質優良價格最低在庫豐富ニ出荷ノ迅速ト現金取引ハ弊店ノ五大特色ナリ

縣議選擧に關する
知事の告示概要
三日縣報號外にて公布さる

本縣會議員選擧に關する知事の告示は一昨三日縣報號外を以て公布されたがそれによると

一、選擧の期日及時間　九月二十五日午前七時より六時まで
一、選擧人員　四十二人
一、選擧長及管理者名（二十七名）
一、選擧區（三市を除いた十七區）
一、選擧開票（七區）
一、各郡運動費最高額
（別項）
一、選擧に使用し得る營造物
一、同使用禁止建物
一、選擧區に關する文書送達箇所

等である、此のうち各選擧區に於ける選擧長には福島若松、郡山は各市長であるが郡部に對しては

選擧區	官職名	氏名
信夫郡	事務官	沖森源一
伊達郡	同	佐瀬剛
安達郡	同	里見富次
安積郡	縣屬	遠藤長誠
岩瀬郡	同	大高省三
南會津郡	事務官	長澤淑人
北會津郡	縣屬	田中六郎
耶麻郡	事務官	伊藤秀吉
河沼郡	縣屬	船尾元吉
大沼郡	同	安田峰二
東白河郡	同	坂田長吉
西白河郡	事務官	山川源三
石川郡	縣屬	大高浩太郎
田村郡	事務官	水谷平吉
石城郡	同	中川陸司
双葉郡	同	山內逸造
相馬郡	同	酒井百人

が任命されて居る、選擧區は一郡市一區の割であるも定員三名以上の伊達、耶麻田村、相馬は各一ヶ所の開票區を增設しあり石城は殊に二區を增設してゐる之等區畫について見れば

△伊達郡川俣開票區
（掛田町　小國村　靈山村　石戸村　小手川村　小手村　小島村　川俣町　飯坂村　小綱木村　大綱木村　富田村　福田村　大久保村　飯野村　青木村　立子山村）
△安達郡本宮開票區
（杉田村　大山村　玉井村　本宮町　荒井村　青田町　仁井田村　岩根村　高川村　和木澤村　白岩村　白井村　石井村）
△耶麻郡猪苗代開票區
磐梯村　翁島村　十里村　月輪村　長瀬村　猪苗代町　磐保村　磐瀬村　吾妻村
△田村郡小野新町開票區
（二瀬村　御舘村　七郷村　飯豐村　小野新町　夏井村　瀧根村　大越村　山根村）
△石城郡植田開票區
（泉村　渡邊村　植田町　山田村　錦村　勿來町　上遠野村　入遠野村　川部村　田人村　荷路夫村　貝泊村　石住村　江名町小名濱町　玉川村　磐崎村　湯本町）
△下小川開票區
赤井村永戸村箕輪村澤渡村　三坂村　上、下小川村　川前村　大野村　平窪村
△相馬郡原町開票區
眞野村　高平村　原町　石神村　太田村　大甕村　小高町　福浦村　金房村　新舘村　大須村　飯舘村　石橋村

でありその開票區管理者は

選擧區	開票區	官職氏名
伊達郡	川俣	縣屬大塚　大
安達郡	本宮	同遠藤金吉
耶麻郡	猪苗代	稅務主事岸田儀一
田村郡	小野新町	縣屬遠藤眞壽
石城郡	植田	同佐藤莊吉
石城郡	下小川	同山本　章
相馬郡	原町	同增田　忠

である尙候補者の届出は三市及び南會津郡にあつては市長及支廳長に届出づるもその他の届出は選擧長の現在居る官廳宛に提出すること、なつて居る即ち郡部の選擧長は何れも縣廳役人である故提出に際しては縣廳宛にすべきであるといふにある。

縣議立候補者
一人當り最高運動費
本郡は二千三百五十円三十二錢

三日知事から告示された縣會議員選擧に對しては立候補一人當りの選擧事務所數は大沼郡が三ヶ所である以外の郡市は何れも二ヶ所で選擧委員數及選擧事務員も大沼郡が二十人である以外は何れも十五人宛である運動費最高額の算定は縣內有權者に四十錢を乘じたもので更に議員定員數で除したもので即ち次の如くである

選擧區	費用
信夫	三〇一八円八〇
伊達	二六三六、四〇
安達	二六七一、〇四
安積	三四三六、四〇
岩瀬	二二〇二、八〇
南會津	三三八二、五〇
北會津	三〇二四、〇〇
耶麻	二四二八、九二
河沼	二一四六、六〇
大沼	四〇七七、二〇
東白川	一七八〇、二〇
西白河	二五五八、四〇
石川	三三八一、二〇
田村	二七四五、〇四
石城	二三五〇、三二
双葉	二四〇三、二〇
相馬	二五六〇、一二
若松	二八六〇、八〇
福島	二五九二、八〇
郡山	二九三六、四〇

縣が支出する
選擧費
一萬四千八百圓

二日午後一時から開かれた縣參事會に提案された追加の豫算は次の如く縣費支出の選擧費用は一萬四千七百八十二圓である。

一、昭和二年度歲入出追加豫算（歲入部）警察部渡國庫補助三千九百四十二圓勸業費補助一千八百五十五圓、自作農貸付返納金一千七百四十六圓、縣債十五萬圓、總計十九萬五百六十四圓（歲出の部）警察費一萬七千六百五十四圓、選擧費用一萬四千七百八十二圓、縣吏員其他給與三千四百四十七圓印刷費一萬五百六十二圓

府縣會議員
選擧日取

今回の府縣會議員の選擧は鳥取縣の九月廿一日を皮切りに左の日割で行はれる

九月廿二日　栃木縣、福井縣、福岡縣
九月廿三日　滋賀縣、
九月廿四日　岩手縣、石川縣
九月廿五日　京都府、大阪府、兵庫縣、長崎縣、新潟縣、群馬縣、茨城縣、奈良縣、愛知縣、岐阜縣、宮城縣、福島縣、青森縣、山形縣、秋田縣、富山縣、廣島縣、愛媛縣、香川縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣
九月廿六日　岡山縣
九月廿七日　長野縣
九月三十日　和歌山縣
十月一日　三重縣、德島縣
十月五日　高知縣、山口縣
熊本縣
十月六日　山梨縣
十月十四日　靜岡縣

以上三十九府縣で北海道東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣は昭和三年佐賀縣、沖繩縣は昭和四年島根縣は昭和五年に行はれる

縣議選に
使用し得べき
縣の營造物と
使用を禁止されたもの

來るべき縣會議員選擧に際し演說會場として運動に使用し得べき縣の營造物は

名稱	位置
元石城郡會議事堂	石城郡平町
元田村郡會議事堂	田村郡三春町
元石川郡會議事堂	石川郡石川町
元東白川郡會議事堂	東白川郡棚倉町

の四ヶ所であり更に之れが使用を禁止されたものは次の如くである

市町村會議事堂にして事務室と同一建物内に在るもの、市町村組合議事堂にして事務室と同一建物内に在るもの、町村組合議事堂にして事務室と同一建物内に在るもの、商業會議所議事堂にして事務室と同一建物内に在るもの、縣農會議事堂にして事務室と同一建物内に在るもの

縣議選
本郡開票區

縣議選擧本郡の開票所と管區町村は左の如くであつて少きは六千多きは一萬千餘の多數に上る事で當日開票結果の判明するまでには相當の時間を要するものであらふ

植田開票區　勿來、上遠野、入遠野、川部、田人、泉、渡邊、植田、山田、錦、荷路夫、貝泊、石住、江名、小名玉川、磐崎、湯本、此票數一萬三千九百五十一

下小川開票區　赤井、永戸、箕輪、澤渡、三坂、上小川、下小川、川前、大野、平窪、此票數五千五百六十三

平町開票區　平、飯野、鹿島、豐間、高久、夏井、神谷、大浦、草野、四倉、好間、內鄕、此票數一萬五千三百十九

縣議本郡選擧長
代はらん

本縣事務官中川陸司氏は昨日依願免官となり後任は左記の通り茨城縣事務官尾戸次作氏が任命された

依願免本官　地方事務官（福島）中川陸司
地方事務官（茨城）尾戸次作
福島縣事務官を命ず

右の如くで石城郡縣議選擧長たりし中川氏の免官に依つて當然本郡選擧長は尾戸氏代はるものであらふ

普選に直面して「石城縣議戰」
立候補者の顏ぶれ略決定し
正式の手續……事務長の決定
事務所、運動員、挨拶狀、ポスター
演說會等＝等、遂鹿戰は將に本戰に入る
定員を超ゆる三、四名……
大混戰は←→想像に余りあり矣

「既報」石城郡の縣會遂鹿戰も知事の告示公布あり各立候補者はそれ〴〵手續き運動準備の模樣である。今日立候補者の確實と覩られる人は

◎政友會　側公認候補たる井上茂作、鈴木辰三郎、山崎吉平、古川傳一の四氏、

◎民政黨　側公認候補として野崎滿藏、若松美三、鷲清章の三氏

◎中立　として青沼鋒太郎、田子健吉の二氏

勞働無產黨方面よりは確報を得ず先づ都合合せて政友四、民政三、中立二の九名であつて定員は六名であるから、三名の定員より超過を見石城郡は大激戰地である、いづれの候補も選擧事務長の確定せぬうちは事務所も開設し得ぬ事になつて居るこの間に於ていち早く名乘りを上げたるは田子健吉氏である。事務長は何でも芳賀保三郎氏と聞く事務所は平町白銀町の加藤丈夫氏の貸家「福島民友新聞支局」にポスターやら事務所の表示を立看板を以つてなした、其他政、民、共未だに事務長が確定せぬもの、如く引いて事務所も決定して居らぬ如くである、かくものするうち田子候補は寫眞入りの立候補挨拶のハガキを郵配して來た——。かくして縣議戰は除々ポスター、演說、等、等、白兵戰に入つて行くであらふ。

勝負は時の運と申せど當？　何事も努力である油斷大敵であるが、其處には平常の奉仕と奮闘がなければならぬ、此處に各候補の勢力分野を想像して見る

井上茂作氏候補

二十八日の政友豫選會に於て公認に敗れ小野晉中氏の辭任に依つて公認となつた氏は平を除く地盤はさしてあるまじくその平町は、氏の外に青沼、野崎、山崎、鈴木なんどと大混戰地帶であれば候補者中一番苦戰と見られて居る、

鈴木辰三郎氏

は夏井村出身海岸通りに根強い勢力がある

野崎　滿藏氏

平は勿論出身地たる玉川方面を土臺として戰法を進める事であらふ

山崎　吉平氏

飯野村は勿論なるも木村清治氏の地盤四ッ倉大浦其他に舊政友側として動かすべからざる勢力がある。

若松　美三氏

赤井村其他山間部を土臺として進むであらふ田子健吉氏の出現によつて民政黨として多少影響するものであらふ

田子　健吉氏

氏は主に山間部に運動を集注して居る樣である、嚴父英吉氏は民政黨多年の黨員であるが、血は水よりも濃きに漏れず愛息のために突進するであらふし、氏を廻る民政黨元老連の進退はどうなるか見物とされて居る

青沼鋒太郎氏

は炭礦方面を地盤としての立候補と稱されて居るが平町には氏を援くる有力者ある如く可成りの優位にあるもの、如くである

郡南に入つて

鷲清昇氏　古川傳一氏

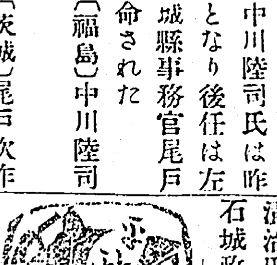
兩氏の勝負は又別個のもので過般の改選の折、古川大平の兩氏とも當選した事實に見ても北部方面の如く同志打ちはなきものなるも上遠野其他の山間部は混戰地帶となる事であらふ兎に角今遂鹿戰は區制廢止普選の事一寸想像がつかぬと某選擧通の談をそのまゝ。

五日迄候補者の

事務長 及び事務所の

決定せるもの左の如くである。

田子健吉候補　事務長芳賀保三郎氏事務所平町白銀町
山崎吉平候補　事務長木村清治氏　事務所平町二丁目石城政友倶樂部



■縣議戰といふアマリ有難くない男道樂の邪魔物が現はれて花柳界はトンとサビれが來るといふので紅裙連のシホれ方はない靑スダレの時は去つて枯ス、キのシーズンとはなつた

■私淋しいはの谷口の若勇は東京に去つたは古い事仲良しの仲家の小猫サゾ淋しい事であらふ

■福清の玉香は身受けされて郡上り、代りに太郎といふ若い八天な妓が出た、それが新妓として仲間入りとしてはこの旬間中出たは出たは ■林家に勝代、■三島家に靜江、この妓は郡山仲喜で吉彌と稱した妓である育ちは三春、■三好家に琴治、■山形家に千代龍といふ時節にふさはしからぬ佐保姫的な妓、■吉野家からは千松と一郎の二八、■橘家からは豆奴といふ立田式、■湖月に文龍、■久本のひさごは三度の歸り咲きである。前記の琴治、千松豆奴、靜江、勝代なんては同名異人何代目かであるから御マチがいのない樣に

■平街女將連に仲家の女將、玉よしの女將、壽遊亭の女將、この人らが集り飲むと仲家は笑ひ、玉よしは怒り■遊亭は日暮し泣く相だ。醉人、一つ小光亭あたりでのまして御覧選擧違反にはならぬから、それとも門前當りに紅葉觀物でも良いでせう。

■二葉家の松葉、仲家の壽美藏、品澤の小金このネーさん達も三人組、■榮家の榮と開花の花見、谷口の喜多勇と三島家八千代この妓等は同姓愛か、それとも共同戰線か知る人ぞ知る。

■三好家の玉川の血流たる多賀子は拾月になると良い事あるとか、同じくカキツ心配で送り届けは安くない

話耳目

□縣議改戰に當りて本紙は前號にて聲明の通り嚴正批判それが知る範圍の場面を報じ眞相宣傳仕るものである

□時燈火親むのシーズン來りて此際運動に讀書に遂鹿何者ぞとその道に進み得る學生諸君は幸福であるワイ

郡下三萬四千余の
縣議有權者は
立候補者とその眞顏を
知らざるもの多し

縣議改選に當りて本郡の立候補者と稱せらる人の顏觸れを見て民衆に對する印象はどんなものであらふ、即ちその姓名の知られて居る範圍の廣狹は如何一寸ものして見る。

○井上茂作氏　政友會、公認候補者「平町」氏は平消防組頭、現縣會議員平町議として郡内に廣く顏の賣れて居る事であらふ、殊に大瀧發電所問題では反對側の驍將として平町民は女子子供迄知つて居る事で一言居士として有名で、何でも彼でも顏を出して居るから宣傳は良くして居つたものである。

○野崎滿藏氏「民政、公、平町」氏は玉川出身平町議所得稅調査委員藝妓屋組合の幹部、大瀧問題では井上氏と等しく其黨の鬪將として知られて居る。

○青沼鋒太郎氏「平町中立」氏は元石城郡長として磐炭事務部長として舊有權者には顏の賣れて居る事であらふと思ふ。

○山崎吉平氏「政友、公、飯野村」氏は飯野村の前村長であつたから村内は勿論各役場吏員間には賣れて居る事であらふ。

○鈴木辰三郎氏「政友、公、夏井村」氏は磐城貿業銀行專務取締役　又石城政友會の幹事長として常に平町は南丁目泉屋旅館に居を占めて居る人であつて世話附きで縣會議員たらむも良く、縣廳方面に出入して居るから政治屋連には良く知られて居る人である。

○若松美三氏「民政公、赤井村」氏は赤井の村長であつたが縣議候補のため同村長をやめたとかで常に平町南町の民政倶樂部に居を占めて居る人である。

○鷲清章氏「民政公、植田町」氏は其派の元老人格者としての鷲清吉翁の息であつて植田町議姓名は聞いて居るが會見の榮を得た事がない。

○古川傳一氏「政友公、植田町」氏は井上氏と同じく現縣議で植田町議この人は××××××××××筆者は一度も會談の機を得た事がない、然し郡南では知らぬ人あるまいか。

○田子健吉氏「中立、三坂村」無帽で有名な田子英吉翁の長子なそうな、民友新聞の理事、石城の地では氏の顏知る人數へる位のものであらふ、筆者福島に其社を訪れたが會談を得られなかつた。

其他無產黨方面からの立候補者は確報を得ない。

要するに顏の判ると判らざると姓名の知ると知らざるとは何も勝敗に影響せまいが、ポスターや言論戰の今日、姓名が知らぬでは投票出來ぬ事、各候補の顏の賣り出しには兎に角骨の折れる事であらふ。

通信

二本松町安達中學校
岡田朝五郎
山野邊兄

拜啓私事歸省中は一方ならぬ御世話樣になりました厚く御禮申上ます、元氣で稽古して居ますから御安心下さい。社内の皆々樣にも宜しく

草々

× ×

在千葉
新妻　熊男
山野邊樣

玲瓏の秋の色漸く濃くならんとす、目覺しき御活動ながら御祝辭を申上ぐ、度々の御惠送誠に有り難く御禮申上ます、慌しき「時」に選ばれてこゝまで漕ぎつけましたが今月は愈々除隊の月、先は御禮のみ

贊援磐中同窓活躍號
大田原憲太郎
「第拾回」磐崎村小野田

祝平新報參週年

日本生命保險平代理店
中野甲藏

飯野村長
伊藤淺之助

平町信用組合

四ッ倉町仲町
長谷川長八

四ッ倉町
日ノ出石材會社

湯本町
籠倉醫院

湯本町
小野藥店

湯本温泉旅館組合

四ッ倉銀行專務
戸田兵藏

赤井村
請負業
筒井粂司

赤井村
小林甲七

不動澤炭礦所長
高階一郎

赤井村區長
根本忠松

神谷村中神谷
醫師
大場仙吉

錦村江栗
請負業
大平又一

上小川村
二本松電氣塩田川發電所工事竣工
荻野組出張所
本店　東京麴町區富士見町四十一

◎入院應需
植田町「電話一〇七番」
片岡醫院
院長　慈惠醫學士
片岡　章